慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	W・W・ロストウ著『共產中國の見通し』
Sub Title	W.W. Rostow : The prospects for communist China
Author	石川, 忠雄(Ishikawa, Tadao)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication	1955
year	
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and
	sociology). Vol.28, No.7 (1955. 7) ,p.44- 53
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	紹介と批評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara id=AN00224504-19550715-0044

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

W. W. Rostow:

The Prospects for Communist China

1954. pp. 379. published jointly by The Technology Press of Massachusetts Institute of Technology and John Wiley & Sons, Inc., New York.

W・W・ロストウ著

『共産中國の見通し』

-

について統一的な判斷を提供することによつて、將來のアメリカのでのべているように、「北京政府の意圖とそれをなしとげる能力と者の協力をえてまとめられた勞作である。本書は、著者自身が序文クサンダー・エクスタイン及び前記國際問題研究所の多數の專門學・ード・W・ハッチ、フランク・A・キェーマン・ジュニア、アレード・W・ハッチ、フランク・A・キェーマン・ジュニア、アレード・W・ハッチ、フランク・A・キェーマン・ジュニア、アレード・W・ハッチ、フランク・A・キョは、著音は、マサチューセッツ工科大學の經濟史の教授であり同時に本書は、マサチューセッツ工科大學の經濟史の教授であり同時に本書は、マサチューセッツ工科大學の經濟史の教授であり同時に

は、中國共産主義政権をうごかしているものは何か 日中國とくに「○中國共産主義政権をうごかしているものは何か 日中國とくに「○中國共産主義政権をうごかしているものは何か 日中國とくに「○中國共産主義政権をうごかしているものは何か 日中國とくに「○中國共産主義政権をうごかしているか はその目的をなしとげるにあたつて中共政権はどのような問題に営面しているか はそのような見込があるか 田譲測しうる將成功または失敗についてどのような見込があるか 田譲測しうる將成功または失敗についてどのような見込があるか 田譲測しうる將成功」という五つの問題に答えようとしたものである。いいかえれば本書は、中華人民共和國の實態の綜合的な分析とその將來に對する際地、中華人民共和國の實態の綜合的な分析とその將來に對する際地、中華人民共和國の實態の綜合的な分析とその將來に到する際地、中國共産主義政権を入り、たんなる現狀分析にとどまることなくそれぞれの分野でその將來について積極的な精論をみちびきだすことに努めている。

周知のようにアメリカにおける中國研究、とくに中國共產黨にか 周知のようにアメリカにおける中國研究、とくに中國共產黨にか をもかくその研究の成果にみるべきものがあることは否定しえない ともかくその研究の成果にみるべきものがあることは否定しえない ともかくその研究の成果にみるべきものがあることは否定しえない 事實である。このことは本書の卷末につけられている文献目錄を一 見すれば明らかであるが、なかでも Benjamin I. Schwartz, に対して解析のようにアメリカにおける中國研究、とくに中國共產黨にか のには、第二次大戰以後國際政治の指導的地位にたつたアメリカが 中國における共産主義勢力の進出に對して有效な對中國政策を樹立 中國における共産主義等力の進出に對して有效な對中國政策を樹立 中國における中國研究、とくに中國共產黨にか

Robert C. North, Moscow and Chinese Communists, 1953 H. Arthur Steiner, Chinese Communism in Action, 1953. North, Kuomintang and Chinese Communist Elites, 1952 tary History of Chinese Communism, 1952. はないように思われる。この意味において、本書のもつ價値は十分 る中共研究の成果を基礎としてまとめられたものであつて、一應ア れなければならないものであろう。本書は、このような過去におけ Communist China, 1953.——などはわが國においても高く評價さ Benjamin Schwartz and John K. Fairbank, A Documen-Fitzgerald, Revolution in China, 1951. Conrad Brandt, メリカにおける中共研究の現在の水準を示すものといつても過言で Thomas, Government and Administration in Robert C.

すと次のごとくである。 本書の構成は、六部(十七章)に分れている。いまその項目を示 に認められなければならない。

第一部 四九年) 共産黨勝利への序曲---- 權力への鬪爭(一八四○── 九

第三部 第二部 共産黨の政策の發展(一九四九——一九五四年) 中共政權とその支配する人民

第四部 中ソ關係

第五部 共産黨權力と中國經濟

共産中國の見通し

「アジア研究」第一卷第三號において紹介の勞をとられている。し 以上の各項目のうち、第五部のみについては、すでに石川滋氏が

> 紹介することとしたい。 たがつて筆者は、第五部を除く他の部分について、順次その内容を

を行つている。 解することができる」という立場から、第一部において、一九四九 年中國共產黨がその支配を確立するに至るまでの歷史的過程の分析 繼續的支配への見通しは……革命の歴史にてらしてみてはじめて理 著者は、「中共政權の地位、それが當面している諸問題及びその

しなければならない基本的課題として、 台 中國政府の民主的改革 意識の昻揚とくに日本に對する强い反感とは、 革命の基本的課題とくに獨立と近代化への前提としての强力な統一 これら二つの勢力の對決を經て軍閥政治の出現をみることとなり、 う三つの任務をあたえるに至つたことを明らかにしている。 國の民族的獨立 😫中國社會の近代的方向における再形成 展と清朝の政治的無能力と相俟つて、政治的知識階級に中國が解決 機をつくり出したことを指摘しつつ、それが中國の内部的危機の發 的中央政府の樹立は實現されることなく終つたのである。これに對 閥的勢力との妥協によつて行われたものであつたため、革命成功後 において近代的國際關係の一環にくみいれ、中國社會の變革への契 一九一一年に發生した辛亥革命は、これらの革新勢力といわゆる軍 (一九一一年以後は强力な統一國家の形成の課題に變化した) 日中 著者はまず、清末における西歐勢力の侵入が中國を屈辱的な地位 第一次世界大戰の勃發にともなり中國民族産業の發展と民族 一九一九年五四運動 しかし しとい

紹

の指導下に共産主義社會の實現を究極の目的とする中國共産黨とがレーニン主義による黨組織をとり入れた中國國民黨とコミンテルン動に對しては全く無力であつた。かくて西歐民主主義にかわつて、動に對しては全く無力であつた。かくて西歐民主主義にかわつて、前課題を擔いうる新政治勢力の擡頭を促すに至つた。著者によれを發生させ、中國の舊社會舊文化に對する批判を通じて革命の基本を發生させ、中國の舊社會舊文化に對する批判を通じて革命の基本を發生させ、中國の舊社會舊文化に對する批判を通じて革命の基本

年國民黨との分裂を招來することとなつた。

なかで次第に革命の指導權を握ろうとする共産黨の方針は一九二七

新な革命勢力として登場したのである。國共兩黨は、一九二四年第

一次合作を行い、共同して革命の遂行に當つたが、國民黨の連合の

革命に、とくに後者に十分な考慮をはらいえなかつたこと(このこ 制約したこと から追つたこと 日戰爭の發生が國內建設を不可能にし國民黨をその基盤である都市 とは國民黨が農村の再建の重要性を認めなかつたことを意味するも かつたこと(闫眞の全國的統一が存在しなかつたため工業及び農業 な行政的支配を行いえなかつたこと 🛭 臼共産黨を完全に根絶しえな れたため、北伐成功後も全中國に對する完全な軍事的統一と效果的 か。著者は、その理由を、日北伐は一部軍閥との妥協によつて行わ たけれども、そこには一定の限界が存在していた。 なぜで あろう 獨立と近代化との實現に努めた。この努力はかなりの成果をおさめ に成功し、國民黨一黨獨裁のもとに革命の基本的課題である中國の でもなく、また國民黨の階級的性格によるものでもない) かくて一九二八年、蔣介石は北伐の勝利によつて一應全國的統一 份蔣介石は國内建設よりも全國的統一を優先して考 田蔣介石の獨裁的支配は却つてその政治的能力を 四抗

> 産黨の進出を可能にした、としているのである。 検つて國民とくに知識階級・勞働者及び農民の不滿を增大させ、共 と、などにもとめ、これらの諸條件が國民黨內部における腐敗と相 と、などにもとめ、これらの諸條件が國民黨內部における腐敗と相 の經濟的社會的地位の改善に對する希望を利用させえなかったことが農民

功したのである。 よつて、一九四九年國民黨に對する勝利を獲得し、全國的統一に成 國民黨の軍事的政治的弱點を決定的に利用する」(四二頁)ことに 得(いずれもソヴェトの默認による)に助けられ、一九四五年後の る發展の機會と戰後における日本軍武器及び滿洲の戰略的基地の獲 著るしく發展させるに至つた。かくて共産黨は、「抗日戰爭におけ 得・整風運動及び穩健な土地改革の展開と相俟つて、共産黨勢力を の結成は、新民主主義論の發表によるインテリ及び中産 階級の 穫 大しうること、などの利益をもつものであり、國民黨との統一戰線 ること 臼蔣の軍事力を共産黨にではなく日本軍に使用させうるこ 著者によれば統一戰線政策は、Hソヴェトは日本の侵入に反對しう させ、一九三五年八月抗日民族統一戰線政策の採用を可能にした。 の革命の基本方針の成功は毛澤東の黨内における指導的地位を確立 東の指導下に農村工作重點主義にもとづく革命運動を展開した。こ 入ると、コミンテルン及び黨中央の都市工作重點主義に對して毛澤 これに對して共產黨は、國民黨との分裂後ソヴェト革命の段階に

以上の敍述から知られるように、著者は、國民黨沒落の原因をそ

ればならない。それならば、これらの課題は一九四九年以後中國共 課題とくに國內建設の問題を完全に解決する力をもつていることを 事力、第二に中國農民の大部分と中國インテリゲンギャの積極的分 年の蔣介石にかけていた二つの主要な力、すなわち第一に統一的軍 か。これがつぎに取りあげられなければならない問題である。 産黨によつてどのように處理され推進されてきているの で あろ う 意味するものではなく、問題は依然として殘されているといわなけ 掌握に成功したことを示すものであるにしても、中國革命の基本的 プログラムをもつていた」(四三頁)中國共産黨に革命の擔い手と 子の支持(または消極的承認)を利用するように計畫された政治的 む種々の原因が前述した革命の基本的課題に對する解決 を 困 難 に 伐後における國民黨の革命の成果を相當高く評價し、抗日戰爭を含 理解しているのではないように思われる。いいかえれば著者は、 の階級的性格にもとめ、中國共產黨の勝利を中國革命の必然として しての希望をつながせるに至つたとしているように思われるのであ し、國民の國民黨に對する不滿を增大させ、それが「一九四五―九 したがつてその勝利は、中國共產黨が强力な統一的國家權力の

=

有效な共産黨の支配のもとに新しい國家機構を確立すること(台中いて考察した後、權力獲得當時における共産黨の主要な任務が、台まず、一九四九年以後における國內及び對外政策の歷史的根據につ年に至るその政策の發展についての分析に當てられている。著者は第二部は、中國共産黨が國家權力を掌握した一九四九年から五四

紹介と批評

て本質的にソヴェト制度と同質的なものである――を樹立し發展さ 權は共產黨にあり、大衆の組織化・大衆監視機構の樹立などを含め 裁と民主集中制にもとづく中央及び地方政治組織――究極的な支配 四九年の中國人民政治協商會議で採擇された基本法によつて連合獨 中國共產黨の活動はこの方向に沿つて展開された。すなわち、一九 濟を再建すること(八七頁)、にあつたとしている。したがつて、 都市農村における社會勢力のバランスを變化させ(地主・富農及び 且つ大戰を避けうる限度で對外的膨脹の可能性を利用すること **國國民を迅速にその完全な支配下におくようにすること** ○年三月までに物價の安定を實現し、破壞しつくされた經濟の急速 インフレーションの抑制に種々の對策を講じることによつて一九五 び工業生産能力の最高限度まで生産量を増大することに努め、 土地改革を行い、思想改造運動を强行するとともに、 訓練を强化し、勞働者・農民・青年・婦人などの組織化に努力し、 階級を中心とする革命的諸階級の協力の實現に努め、黨員に對する せ、從來の農村工作重點主義から革命の重點を都市に移し都市勞働 せ、國家の管理する經濟的發展の基礎をつくり出すような方法で經 た階級(貧農・都市勞働者・青年及び婦人)を共産黨の指導と統制 都市中産階級を消滅もしくは弱體にすることによつて)、新に上昇し 既存の農業及 (1)迅速に

年にかけて種々の困難が現れてきた。たとえば、政府資金の不足とう見地から概ね穩健な方法ですすめられた。しかるに一九五一--ニこれらの政策は、その初期においては不必要な摩擦を避けるとい

な復興を開始させたのである。

頁)、などを實行したのである。著者によれば、このことは中共政權 の權力の衰退を示すものではなく、中央權力の强化は十分に留意さ 經濟的發展及び消費財の供給增加の公約に對する宣傳の强化(ハセ で生き殘つた中産階級の將來の地位の再保證 對する壓力の輕減と自作農の土地保有に對する再保證 全力を傾注するとともに、一九五三年に入ると、分農業の協同化に である反米向ソー邊倒政策を改めたわけではない)國内經濟建設に になつた。そこで政府は朝鮮戰爭を終熄させて(一貫した對外政策 は農工業生産の不斷の增大を妨げる、ということが認識されるよう のであるが、その展開過程をつうじて、日對外的膨脹と國內建設と 中國共產黨を中心に强力に推しすすめられ、相當の成果をおさめた 三頁)とりあげられたものであつたのである。これらの大衆運動は、 反・土地改革などの大衆運動は、いずれもこのような困難な諸現象 **戰爭の損耗によつて中國經濟及び政府財政に對する負擔が非常に增** は矛盾する 臼急激に政治的社會的權威を絕對化しようとする措置 威を増加し、資金を調達しインフレーションを阻止するために」(七 に對して、「中國民衆に對する中共政權の效果的な政治的社會的權 に展開された抗米援朝・反革命鎭壓・愛國公約・增産節約・三反五 加してきたこと――などがこれであつた。著者によれば、この時期 劃に對して不十分であつたこと、對外的膨脹政策の現れである朝鮮 消極的抵抗の兆候が現れてきたこと、生産の増加も希望もしくは計 じてきたこと、大衆說得と社會的壓迫の方法にもかかわらず不滿と インフレー ション再發の脅威、共產黨員に非能率と腐敗の現象が牛 (| 五多運動の展開に (1)五反運動

第三、四、五部はまさにこの分析に當てられているのである。第三、四、五部はまさにこの分析に當てられているのである。第三、四、五部はまさにこの分析に當てられているのである。第三、四、五部はまさにこの分析に當てられているのである。がくて、一九五三年秋の集中を確保し次の前進を計劃するためにある、かくて、一九五三年秋の集中を確保し次の前進を計劃するためにある。かくて、一九五三年秋の本で、連邦のそれに做つて行われることとなつた。著者は、現在にヴェト連邦のそれに做つて行われることとなつた。著者は、現在にヴェト連邦のそれに做つて行われることとなつた。著者は、現在にヴェト連邦のそれに做つて行われることとなった。著者は、現在にヴェト連邦のそれに做つて行われることとなった。著者は、現在にヴェト連邦のそれに做つて行われることとなった。著者は、現在にヴェト連邦のそれに做つて行われることとなった。著者は、現在にヴェト連邦のやたいのである。第三、四、五部はまさにこの分析に當てられているのである。第三、四、五部はまさにこの分析に當てられているのである。第三、四、五部はまさにこの分析に當てられているのである。

π

検討し、共産主義が思想的にも政治的にも中國にうけいれられるい中國民衆にあたえた影響とその反應とを明確に評價しようとする立中國民衆にあたえた影響とその反應とを明確に評價しようとする立中國民衆にあたえた影響とその反應とを明確に評價しようとする立中國民衆にあたえた影響とその反應とを明確に評價しようとする立中國民衆にあたる、第三部は、第二部で明らかにされた中共政權の諸政策及び行動が第三部は、第二部で明らかにされた中共政權の諸政策及び行動が第三部は、第二部で明らかにされた中共政權の諸政策及び行動が第三部は、第二部で明らかにされた中共政権の諸政策及び行動が第三部は、第二部で明らかにされた中共政権の諸政策及び行動が第三部は、

くつかの要素をもつていたことを論證している。しかし、著者によ る。著者は、これについて、「中共政權の最初の數年の破壞的成果 義の方向においてどこまで解決することができるかということであ するものであり、兩者は本質的には對立的契機を含むものといわな 和するということを意味するものではなく、反對に淸末以降の獨立 つ(この部分はフランク・A・キァーマン・ジュニア氏の擔當)、革 において重大な役割を果すであろう」(一二三頁)ことを確信しつ Kingdom の諸要素が依然として中國社會の將來を決定する力關係 をなしとげてはいない」(二九頁)と考えるべきであり、「Middle は印象的なものであつたが、 な國家權力の壓力のもとに、傳統的中國社會のもつ諸問題を共產主 ければならないのである。したがつて問題は、中共政權がその强大 と近代化への要請と相俟つて傳統的中國社會の基礎を破壞しようと :ばこのことは、共産主義が傳統的中國社會の主要な構成要素と調 一般に考えられているほど多くのこと

といわなければならない(著者は、もし分裂の可能性があるとすれ 東と緊密に結びついており、最高指導部の團結は極めて鞏固である の人々は思想的にも感情的にもまた革命運動の過程においても毛澤 劉少奇・朱德・陳雲等にある――によつて構成されており、これら (をめぐる見解の對立、から生すると考えている)。 著者によれば、現在の政權構成の中心をなす共產黨の最高指導部 約五十名の黨員――究極の權威は毛澤東を中心とする周恩來・ の問題を中心とする對農民政策にかんする對立 毛澤東の死後台後繼者問題をめぐる對立 台國內政策とくに協 しかしこのこと 自對ソ依存問

命推進の中核的存在である中共政權の分析にうつつている。

將來の中ソ關係を決定する重要な要素となりうるばかりでなく、黨 味するものではない。この點について著者は、日中國革命運動にお は中共政權そのものになんの問題も存在していないということを意 存在していることを指摘している。 僚化・農民の從屬的地位に對する舊黨員の不滿、など種々の問題が 心とする活動にかわる技術能率の要求・新舊黨員の對立・黨員の官 に對する適用の困難・黨員に對する監視とその不安・アジプロを中 つつあること(闫黨員自身についても、黨の一般方針の具體的問題 の政策によつて批判的に、また青年知識層にも支持の程度が減少し く支持しているが、舊文化人は思想改造運動をはじめとする共産黨 %)については、中等學校學生を中心とする青年層は共產主義を强 導的地位にあつた知識階級(狹義のインテリゲンヂャは全人口の一 人勢力(and/or 警察)と對立する可能性があること (日 革命の主 た政治的地位をもつことはありえないが、かれの死後國內政策及び いて重要な役割を果してきた軍勢力は毛澤東の生存する限り獨立し

化に重大な障害をあたえるばかりでなく、このような狀態のもとに 失わせ生産の増加を不可能にする。したがつてそれは、中國の工業 しており、農業の協同化と食糧の計劃的徴集とは農民の生産意欲を ども る。土地改革は農村社會構造の一部を變革することに成功したけれ うとしているが、この工業化の成否は結局農業生産の增加に依存す 國の工業化によつて貧困と過剩人口に當面した農業問題を解決しよ び中産階級にも妥當する。すなわち、著者によれば、中共政權は中 この事情は、政權の階級的基礎とされている農民・都市勞働者及 私有的農業制度は依然として中國農村社會の基礎として存在

紹

四

への移行はこのような權力による强行の形をとつて行われているととの移行はこのような權力による項行の形をとつて行われていると農村人口の流入による間歇い会業としていることを著者は強く指摘している。ついで著者は、革命の指籍的階級として中華全國總工會による休養時間の減少、などの問題と農村人口の流入による間歇的失業の存在(闫生産増加のための直と農村人口の流入による間歇的失業の存在(闫生産増加のための直と開放の下途のである。著者は、中共政權の權力的支配機構の存在がたしているのである。著者は、中共政權の權力的支配機構の存在がたしているのである。著者は、中共政權の權力的支配機構の存在がたしていることは、今日のところ否定しえない事實であり、社會主義にしていることを著者は強力による所有。

頁)と主張しているのである。

文、それが提供しうる利益を豪なしにしてしまつている」(一七一枚權の支配は「中國市民の大部分に恐怖にみちた無感動 さ を あ たりなものであるか」というところにおかれるべきであるとし、中共とつているか及びその支配を實行するために選擇した手段がどのよとつているか及びその支配を實行するために選擇した手段がどのような態度を納は、「最高指導部がその支配する民衆に對してどのような態度を納は、「最高指導部がその支配する民衆に對してどのような態度を

げ、現在の中ソ關係の基礎となつている一九五○年の中ソ友好同盟 て優越的地位を保持しうる 的をもつものであり、またソ連にとつても、 共産主義運動においてイデオロギー的政治的優越性を確保する は、中國にとつては、日軍事力建設の速度を最大にする 日滿州蒙 相互援助條約は、敍上の諸要因との關係において、中ソ兩國につぎ う公式的見解を否定し、現在の中ソ關係を決定する要因として、↔ 中華人民共和國の將來を決定する重要な要素であることは、 ソ連からそらすとともにソ連への軍事依存によつて中共政權に對し ソ連から最良の貿易條件と最大の資本輸入を獲得する――という日 アの他の諸國の力を弱體化する。 | | 四アジアにおける中國共產主義勢 古新疆における中國の力を最大限に强化する(闫日本及び東北アジ の狙いを實現させようとしたものであるとしている。すなわちそれ 中ソ兩國の軍事的依存の性質とその程度 胞國家であり、兩者の間にはいかなる對立的契機も存在しないとい イデオロギー的基礎に立つて反帝國主義闘爭を實踐する同質的な同 ソ關係の分析に當てられた第四部において、まず中ソ兩國が共通 ば現在の中國の對ソ依存關係からみても明らかである。著者は、中 中ソ關係の在り方が政治・軍事・經濟等あらゆる分野にわたつて 白 満洲蒙古新疆に影響力を維持する 日滿洲蒙古新疆における ()自由陣營の軍事力を たとえ

毎日本に對して警戒し牽制しうる

リカ及び西歐列張の活動を牽制し共産主義の擴大を圖りうる るものであつたのである。 ソ間のイデオロギー的統一性を維持しうる--―という利益をあたえ 田中

臼中ソ條約は共産主義勢力のアジアへの軍事的膨脹の時期に締結さ て、日中共政權は現在凡ゆる分野で强い對ソ依存關係にあること 强く結びつけておくことに努力するものと考えなければならない。 政權のアジア支配を阻止する ため アジ ア共産黨に對する支配の繼 共産黨員のソ連における教育・中國共産黨へのソ連人の診透・中共 軍事力のソ連依存・中國の共産主義圏への貿易の依存・重要な靑年 危險を避けるために、滿洲蒙古新疆北鮮における有利な地位・中國 事的依存を脱却しようとする意圖がある。したがつてソ連は、この 頁)であり、現實に中共政權にはソ連と決裂することなく、その軍 を求めること、とくにアジアを支配するようになること」(二一一 るにしても長期的には中ソ兩國の指導者間に協力的見解が存在する ソ連側に反對があること(闽このように短期的には種々の問題があ 中國にとつて不滿足なものであり中國は非共產主義圈との貿易の擴 を減じていること(闫經濟的な面で中ソ貿易及びソ連の經濟援助は れたものであるため軍事的な面が重視されたが現在ではその重要性 續、などの事實と政策とを利用することによつて中共政權をソ連に -統一された强大な中國が將來のある段階でソ連から獨立すること かくて著者は、これらの考察をつうじて中ソ關係の見通しについ 著者によれば、中ソ關係において、ソ連に對する重大な危險は、 を指摘しながら、 結局「最も期待しうることでも、それは

> 續するかぎり――とくに毛澤東が生存しているかぎり――、 連の支配が過度に擴大された場合・總路線が失敗した場合・ソヴェ 無力化すること、を擧げ、この條件は具體的には、中國におけるソ く存在しないということではない。著者は、その三つの基本的條件 結論している。しかしこのことは、中ソ關係の分裂への可能性が全 ぎない。初期のチトーイズムの兆候はみられない」(二一六頁)と 中ソ同盟の決定的な破壞ではなく、同盟の强度のわずかな變化にす 營から引きはなすことには役立たない、と結論している。 對する宥和政策は中共を利することはあつても、それをソヴェト陣 係の決裂はほとんど可能性がないと考えるべきであり、中共政權に ような形をとつて現れる、としている。したがつて現在の狀態が繼 または重大な後退に際して西歐から有利な條件が示された場合、の ト國内に重大な危機が生じた場合・第三次大戰におけるソ連の敗北 と・ソ連の國内的困難または第三勢力によつてソ連が中國に對して として、中國指導者の内部にソ連に對する激しい不滿が生じること ・分裂によつて有利な條件で西歐と結合しうるという保證があるこ

六

法にならつて社會主義工業化に基礎をおく國内建設を行うことであ アジアと中國共産主義の將來・結論の各項に分つて、共産中國に對 權の戰術目標・ありうべき國內危機の性質・國內的發展の型・自由 する將來の見通しを明らかにしている。 著者によれば、中共政權の目標は、第一義的にはスターリン的方 最後に著者は結論として、第六部を、最高指導部の幻想・中共政

と批 評

(五七三)

五二

が發生した場合、とくに一九五二年の農業生産高より一〇%の減少 投資に比較しての農業投資の輕視 亡率の急激な減少 いる)。したがつて、これに關係ある五つの要因すなわち(自然死 増加に依存する(中國の社會主義建設はソ連より困難と考えられて している。著者によれば、これらの問題の解決は結局農業生産量の 動の自由の獲得、を掲げているのである。しかし概括的にいえば、 安全の保障と經濟的利益を害わない範圍でのソ連に對する最大の行 を主張しうる政治的イデオロギー的基礎の維持(11中ソ同盟のもつ 農業生産及び分配に對する(一九五七年までに少くとも農民の二〇 的目標として、國內的には、🖯一九五七—九年に工業をソ連の一九 ある。このような一般的目標にもとづいて中共政權は、當面の戰術 る範圍内でアジアにおける中共政権の獨立的權威を增大することで り、それに關連して中ソ同盟を維持し工業化計劃の要求と兩立しう 滞または減少――農業政策に對する農民の反動として―― | ||四工業 より高く、しかも入口の增加とその都市化という重大な問題に直面 次五ヵ年計劃の對外貿易依存度及び軍事力建設の比重はソ連の場合 一九五二年の中國は工業的には一八九〇年代のロシアに近く、第一 い最大限度でのアジアへの膨脹、少くとも後にアジアで指導的地位 と共産主義教育の强化を、また對外的には、台國內建設を阻害しな 二八年の規模にすること 日獨立性を増した近代的軍隊の建設 台都市人口の不釣合な増加
台農業生産高の停

討されるようになるであろうことを著者は强く指摘している。で、指導部は分裂し中共政權の革命方式はアジア各國によつて再檢ヴェト的革命方式が中國に不適當であつたことを示すものであつが生ずる可能性があり、それは單に國內的な問題にとどまらず、ソ策とはその可能性を大きくしているのであるが)「決定的な危機」が數年にわたつてつづけられた場合には(農業の協同化と計劃的徴が數年にわたつてつづけられた場合には(農業の協同化と計劃的徴

れること、を指摘したうえ、現在人民の間には全體主義國家に共通 が、次の世代は現在四十歳代の人々――安子文・賴若愚のような―― は民族主義の鼓吹によつてその溝を埋めるように努力すると考えら は權力者の特權的地位を認識し兩者の溝は深まつてくる一方、 に消費水準の引下げがつづけられるかぎり張化されること (自人民 家族は中共政權の壓迫の最後の退避所として社會的重要性をもつよ 産主義的知識人が增加し人民が都市化する傾向がでてくること (1) まるにしてもその機能は狹められていくこと 目については、10共 る軍勢力と對立する可能性があり、黨は依然中心的存在としてとど ついては、ソ連的官僚勢力が發達し現在相當程度の行政權力を有す によつて擔われソ連のように engineers, industrial managers ○年代までは毛澤東が死ぬと否とに拘らず統一を保持するであろう けて説明しているが、まず「台については、現在の指導部は一九六 ろうか。著者はこれを 日最高指導部 臼官僚 闫人民の三つに分 それならば新中國はどのような形で國內的に變化していくのであ

中共政權の將來を決定することになるであろう、としているのであ れは中共的革命方式の優越的地位を却け、その根本的再評價を招き、 がその當面する政治的經濟的軍事的諸問題の解決に成功すれば、そ 前提のもとに行われる中共のアジア膨脹の意圖に對して自由アジア アジアの動向によつて重大な影響をうけるものであり、大戰囘避の いる。また對外的な問題としては、著者は、中共政權の將來が自由 難い壓迫と脅威に對する嫌悪、が存在していることを明らかにして 口勞働者の低い福祉水準と勞働張化に對する嫌惡 ||累積する逃れ

の結論であり、第三次大戰の發生の可能性は「自由世界の力と統 い。これが、第三次大戰が起らないという前提のもとにおける著者 の統一、という四つの條件にかかつていると考えなければならな 定している。しかしその將來の安定は、前述したように、 滿にもかかわらず、その鞏固な統一と支配機構の存在とによつて安 と意志」にかかつているというのがまた著者の基本的態度である。 これを要するに、現在の中共政權は、中國に內在する數多くの不 阿指導部 分ソ連の

存在するが、すでに豫定の枚數を著るしく超過しいちいちこれを取 い。もちろん著者の見解には問題としなければならない點も數多く 中國研究の現在の水準を示したものと考えられるからにほかならな 新中國に對する有力な見解を代表するものであるばかりでなく、新 本書の内容を紹介した所以は、この書物がアメリカの學界における 以上が第五部を除く本書の概要である。筆者がこのように詳細に

٤ 批

> ろうと思う。 り上げている餘裕がないので、總括的な感想を述べてこの紹介を終

去における最悪の生活環境と歴史的條件とを變革した中國人の中共 在の中共政權と人民との關係についても、たんに權力的支配に對す 出されるということである。たとえば本書の一つの問題點である現 問題をとり扱う場合にいわゆるアメリカ人的見方が非常につよく見 として、著者の見解を裏づける資料はそのすべてにわたつて決して このなかには参考となる意見も少くないが、同時にその當然の結果 て大膽に「戰略的判斷」とも考えられるべき結論を導き出している。 のでないことはいうまでもない。 における新中國研究の代表的業績としての本書のもつ價値を害うも るのである。このような問題はあるにしても、このことはアメリカ もかく現在この問題を正しく理解することはできないように思われ 政權に對する意識を中國人の立場に立つて捉えなければ、將來はと ある。すなわち、西歐的感覺もしくは西歐的生活水準を離れて、過 る反抗という形でこの問題を一般的に理解しうるかどうかは疑問で 今後の展開を期待したい。また本書を一貫して感じられることは、 十分に示されているとはいわれない。筆者としてはこの點について つている分野も本書の分量の割には廣汎であるばかりでなく、極め に視點を置いて新中國の現狀を分析している。したがつてその取扱 すでにみたように、本書は中華人民共和國の將來を豫測すること

(石川忠雄)

(五七五)